



●発行：宗教者9条の会・大分 ●〒879-5102 由布市湯布院町川上 3561 見成寺 TEL 0977-84-2257 FAX 0977-84-5203

先の見えない
不安定な時代
だからこそ
「憲法9条」

日本国憲法 第9条
日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

日出生台海兵隊訓練・激化の兆し

日野詢城



県道104号線を封鎖して行われる県道越えの射撃訓練は早い時期から中止が求められていた。沖縄の基地負担軽減のために、県道越えの訓練を“移転訓練”にするというところで始まった、在沖縄・米海兵隊の実弾射撃訓練は激化の兆しを示している。155ミリりゅう弾砲は昨年の倍に当たる6門、射撃数は過去最多の693発（市民運動・監視小屋のカウント数）、これまでは午前中を中心に行われていた実弾射撃、今回は夜間

に176発。終了時間の21時ギリギリの発射もあった。数年前から次第に情報の公開が厳しくなり、今年は2月1日に先発隊到着、翌日に本隊到着、隊員到着後に武器の搬入、10日から20日頃まで射撃訓練：という極めて曖昧な情報開示しかなかった。

※ 米軍の訓練と 反対運動のあらまし

日出生台における米軍訓練に対する反対運動の歴史は1987年に行われた『日米共同訓練』にさかのぼる。「国の専管事項」として強行された訓練。訓練が始まる半月ほど前から湯布院の町など周辺地域は騒然となった。仮想敵国を想定した「有事即応体制」の共同訓練として、始めて自衛隊は米軍の指揮下におかれた。陸上部隊は日米あわせて3200人、訓練期間中、米空軍の戦闘機や大型の攻撃機・偵察機・ヘリコプター

などが飛来、私どもの想像を遙かに超える大規模な演習となった。自衛隊も戦車や戦闘機・偵察機など、後方支援を含めれば数万規模の総力戦が展開されたのである。

訓練前から始まった抗議行動は、全国規模となり、連日数百から数万人規模の抗議行動が組まれ、周辺市町村は騒然としていた。演習場を取り巻くピースカー行動や、手を繋いで日出生台を取り巻く“人間の鎖”などには多くの市民が参加し、沖縄からも多彩な顔ぶれが参加した。

それから10年後の1997年、国は米海兵隊の訓練を日出生台で行うと発表。地域は分裂、大規模な反対運動が繰り返されている最中に、県知事は「受け入れやむなし」と判断し、北海道から九州の5カ所ですべて4回の移動訓練が実施されることになった。今回の訓練は3年連続9回目。今年も1月22日に、玖珠川河川敷で連合九州ブロック

と連合大分共催の『米軍基地整理縮小』『日米地位協定の抜本改定』を求める集会に5500人が集まり、訓練の中止を求めた。この集会は、移転訓練が始まった2000年から続いている。大規模なこの集会の他、大分県『平和運動センター』などで構成する『日出生台対策会議』は、防衛省や県などに要請行動をすると共に、大分空港、日出生台・大在埠頭などで5000人規模の抗議行動を組み、射撃訓練中の日出生台でも市民運動と共に1000人規模の集会をもち続けてきた。

97年に移転訓練が発表された時、湯布院町では官民一体となった反対運動が組織され、様々なアクションが組まれた。後に大きな役割を果たすことになった『3町連絡協議会』（湯布院町・玖珠町・九重町）もその時に発足。労働組合が殆ど無い湯布院町では、観光協会や旅館組合などが中心となり反対の狼煙を上

げることになりました。その事務所が『ローカルネット大分・日出生台』でした。県内外の賛同者を集めた強力な運動体でしたが、その後様々な事情や切り崩しがあり、分裂、声を挙げにくくなった人たちは身を引くことになり、困難な課題を抱えることになりました。一度途絶えかけた『ローカルネット大分・日出生台』を立て直したのは浦田龍次さん（事務局長）で、ネット時代の市民運動として継承、今を支えています。

※ その場に立つことで 見えてくるもの

2012年度の米軍演習に対する抗議行動は、1月半ばに始まった県や防衛省への要請行動に始まり、22日の玖珠河川敷での5500人集会、「大分県各会連絡会」（九重町・300人）などが先行し、2月1日から20日までの訓練期間中には、日出生台の何処か

で誰かが抗議行動を取り続けていたと言えます。『宗教者9条の会・大分』の世話人でもある、日本山・妙法寺の酒迎さんたちは10日から19日までの間、演習場周辺で「お祈り」の行脚を続けたいと言います。射撃訓練の初日にはJR由布院駅から監視小屋までの17キロを歩く、「ピー・スウォーク」に津久見の牧師、野口さん夫妻が参加しました。私もゲート前集会や監視場に顔を出し情報を貰うなどの関わりを…。本隊の到着日、現地はマイナス5度。10時に日出生台ゲート前に集合とい

うことで出かけてみたら、「まだ沖繩を出発していない」という。改めて13時に集合することにしたが、凍結がひどく地元組だけで待つことに。パトカーに先導されたバスが到着したのは15時。数分の間、バスに向かって「マリーンズ・ゴー・ホーム！」と叫び、総ての車両が演習場内に入ったところで解散。「そんなこと

して何になる…」という囁きが聞こえるような気がする。でも私たちよりもっと過酷な条件下で、その一瞬を逃さないよう張り付くのはマスコミの人たちだ。雨の日も雪の日も、一日中カメラのフラッシュを覗き続けている。双眼鏡では殆ど何も見えない遠くを見つめ、何一つ情報のない中で発射の一瞬を捉えるのだ。

※ 拡大されているのか 演習の実態

10日深夜事件が起きた。21時に訓練は終了する約束になっっているのに監視小屋も閉鎖し、退散して1時間半も過ぎていた。境界線に張り巡らされたロープを外すという異例な行為に気づいた地元消防団の一人が、仲間を呼んで「事件」は発覚した。155ミリ流弾砲6門が米軍の大型トラックに繋引されて場外に出てきたのである。「道を聞

違い、やむを得ず県道に一時出て場内に戻った」というが、何処にも連絡のないままの行動であったのだとおもう。現地に張り付いて警備をしているはずの警察が、事件発覚後に駆けつけるといふ事態になった。ゲート前で何かを交渉している米軍と県警の報道写真は23時42分と記されている。場内では恒常的に21時以降の演習も為されているのかと…

世界が軍縮の方向に向かっている今、アメリカも軍縮に踏み切った。その肩代わりなのか日本の今は絶望的にも見える。だからこそ「憲法9条」なのだ。



内閣総理大臣 野田佳彦 殿
アメリカ合衆国大統領 バラク・オバマ 殿

日出生台米海兵隊実弾砲撃訓練に抗議します

我々は怒っています。

今年も、何の変更もなく、当たり前のように米海兵隊が大分県日出生台演習場にやって来て、実弾砲撃訓練を繰り返していることに怒っています。

近年、じわじわと進行してきていた経済不況に加えて、昨年3月11日に起きた東日本大震災と福島原発事故によって、日本は今、かつて経験したことの無い困難にあえいでいます。それを理由に国民生活のすみずみまで切り詰めを要求され、さらに大幅な増税も打ち出されています。多くの国民は「震災復興のためなら仕方ないこと」とそれらの政策を受け入れる気持ちでいます。

それなのに、防衛費だけがまったく手をつけられることなく膨らみ続けていることは許しがたいことです。今、もっとも無駄な出費としてカットされるべきは防衛費です。震災の場でも原発事故現場でも自衛隊員は役立っても軍艦やミサイルや戦闘機は何の役にも立ちませんでした。当然です。兵器は破壊と殺戮の機能しか有していませんから。

我々は怒っています。

震災のとき、救助に出動した在日米軍が、その人道的支援行為を、「トモダチ作戦」などというふざけた名前をあとづけすることで、日米軍事同盟強化に利用したことに怒っています。

沖縄普天間基地の「移転」先として、辺野古に固執し強引に進めようとする日米両政府に怒って

います。普天間基地は移転ではなく撤去です。それ以外の方法は沖縄県民も日本国民全体も受け入れられないということは、日米両政府もわかっている、それでも辺野古に強権的に移転しようとするのは、アメリカの軍事的野望に日本政府が迎合しているに過ぎません。そんな日米関係に我々は怒っています。

アメリカはもう、世界最強の大国ではなくなったことを、大統領もアメリカ国民も認識すべきです。アフガニスタンやイラクでの大きな犠牲に学ぶべきです。

日本はこれから何十年も原発事故の後始末と大量に放出された放射性物質から若い世代をどう守って行くのかということに、じっと向き合っていないのです。そういう悲しい国の民になったのだと、多くの人々が気づいています。我々の安全を守ってくれるのは最新鋭の兵器ではなくて「ひと」のやさしい心と暖かい手だということをみんな実感として知りました。その実感が総理や政府関係者に共有されていないことに危機感を覚えます。被災地の人々の苦難の暮らしと、今、日出生台の大地に海兵隊が砲弾を撃ち込んでいる行為との、この大きな大きな隔たりを我々は「怒り」という感情でしかつなぐことが出来ません。

我々は怒っています。強い怒りをもって、以下のことを申し入れます。

日米両政府は協力して

- 一、日出生台米海兵隊実弾砲撃訓練を即時中止し、来年以降も再開するな
- 一、普天間基地の無条件返還を急げ
- 一、日本にあるすべての米軍基地を撤去せよ
- 一、武力に頼ることなく、戦争のない世界を創るために汗を流せ

日本政府は

- 一、米軍への「思いやり予算」を全廃し、防衛費を大幅削減して東日本の被災者を救え
- 一、自衛隊を災害救助隊に改編し、全方位平和外交を貫け

2012年2月19日

日出生台米海兵隊実弾砲撃訓練に抗議するゲート前集会参加者一同

呼びかけ（宗教者9条の会・大分）

3月11日午後2時46分に思いを馳せ!!
寺院・教会などで「追悼・祈り」の鐘を鳴らしましょう



3.11 に関わる行事の紹介

3.10.11
SAT SUN

@ 若草公園

午後1時 集会
午後1時15分 若草公園スタート

さよなら原発
パレード

くわしくは公式ブログで
<http://oita311.blogspot.com/>

3.10 無料映画上映会
SAT @iichiko総合文化センター
B1F 映像小ホール

【チェルノブイリ・ハート】
【ほんまかいな原発】



上映時間
原発、ほんまかいな?
14:00 ~ 15:15
16:45 ~ 18:00
チェルノブイリハート
15:30 ~ 16:31
18:15 ~ 19:16

主催●さよなら原発 大分実行委員会
問合せ●TEL097-569-5908 (グリーンコープ生協内)

ピースコンサート

3月10日 開場 17:30/ 開演 18:00
大分市コンパルホール(文化ホール)
一般 800円 しょうがい者・大学生以下 500円
主催●平和のための戦争展 in 大分
共催●大分混声合唱団/クール・エスポワール

東日本大震災支援

「祈りの大コンサート・大分」

2012年3月11日(日)
開場 14:00/ 開演 14:30

大分市コンパルホール(文化ホール)
入場無料

お問い合わせ●日本福音ルーテル大分教会
野村陽一 (090-3256-0426)

古友 震 飛 菅 松 古 池 河 友 野 高 会
谷成 災 河 真 井 谷 本 野 成 口 藤 費
成 支 弘 道 由 世 和 光 眞 春 英 納
聡 援 東 美 弘 聡 之 男 子 者
真 子 度

宗教者9条の会・大分事務局

〒879-5102
由布市湯布院町川上 3561 見成寺
TEL 0977-84-2257
FAX 0977-84-5203
年会費 3,000円
郵便振替口座 01720-1-111731

今お薦めの本

- 高橋哲哉『犠牲のシステム福島・沖縄』
- 3.11が暴いた「戦後」の欺瞞
- 集英社新書・740円+税
- 対談 高史明・高橋哲哉『いのちと責任』
- 「私」の罪、人間の罪、国家の罪、大地への罪
- (2年間・4回の対談を編集) 大月書店・2,000円+税

年会費納入・カンパを よろしくお願いします。

編集後記

2月27日、自民党は第二次
憲法改正草案の原案をまと
めた。

「武力攻撃やテロ、大規模
災害などの緊急事態が発生し
たとき、首相の権限を一時的
に強化する緊急事態条項を新
たに設け、天皇を国家元首と
定めたほか、集団的自衛権の
行使を認める。」というもの
だ。

9条1項については「自衛
権の発動を妨げるものではな
い」との条文を加え、自衛隊
を「自衛軍」と位置づけ、軍
法会議に当たる審判所を設置
する。(読売新聞)誰がこう
いうものを草稿するのか、背
筋が寒くなる…。(詢)

世話人(◎代表者)
無着 成恭 曹洞宗僧侶
酒迎 天信 日本山妙法寺
◎日野 詢城 大谷派見成寺
林 正道 大谷派安養寺
西郡 均 本願寺派誓岸寺
古谷 聡 大谷派蓮照寺
佐々木 淳二 大谷派ナイトキリスト教会
掛橋 泰定 日蓮宗妙栄寺
大在 紀 本願寺派長光寺
野口 春夫 日本基督教団津久見教会
永井 一匡 アライアンス六ヶヶキリスト教会